

いきいき生活支援員の“ならでは”の働き方の紹介

おとしより(利用者)と知的障害のあるスタッフ(いきいき生活支援員※)が、お互いの関係を認め合い、お互いの安心出来る居場所を自然と創り出せる、このような「相互関係」を構築出来るのは、知的障害のある人それぞれに効率性や生産性だけではない計り知れない能力があるからであり、それを「“ならでは”の働き」と呼ぶようになりました。

※いきいき生活支援員は2015年度より滋賀県独自の資格として制度化されています。

もっとたくさん介助の仕事がしたい



やわら
デイサービス和
介護職員 奥野孝雄さん

デイサービス和を訪ねたら、奥野孝雄さんの元気な声が聞こえてきました。奥野さんはデイサービス和で働いて4年目です。バスを使って通勤されています。

雇用のきっかけは「介護等の場における知的障害者就労促進事業」の研修修了後の和での実習を受けたことでした。仕事内容はレクリエーションや食事、おやつの準備、掃除や洗濯などです。週に4日から5日、フルタイムで働いておられます。言葉遣いがとても丁寧で、おとしよりと自然体でコミュニケーションをとっておられます。

今、仕事で頑張っていることは、お誕生日会のカード作り。担当を始めて1年が経つので内容が被らないように工夫をするのが難しいそうです。

そんな奥野さんの将来の夢は、「和で働き続けること」「もっとたくさん介助の仕事ができるようになること」だそうです。

Q おとしよりとの関係は？

奥野さんが体操の先生をしてくださっているのですが、お休みをされると「今日は体操の先生はお休み？さみしいな。」ということをおっしゃって、関係性はいいと思います。



やわら
デイサービス和
管理者 田子森義江さん

奥野さんのある日のスケジュール

9:40	9:45	10:35	12:00	12:15	13:15	14:10	15:15	15:45	16:30	17:40
出勤	創作活動準備・ 実施	立位体操 座位・口腔体操 準備・実施 レクリエーション	昼食準備	昼食休憩	会話等 おとしよりの	座位体操・日替わりゲーム	ティータイム準備・介助	歌の時間 頭の体操・	翌日準備・清掃等 お見送り・	業務終了
										



おとしよりの方とたくさん関わって楽しくしたい

パストラルとよさと
介護職員 加藤たか子さん

加藤たかさんは前も施設でメンテナンスの仕事をしていましたが、直接、おとしよりの介護がしたいと、パストラルとよさとで働くようになりました。働いて3年目です。

仕事内容はレクリエーションや食事の準備、フロア見守りや介護補助など様々な業務をこなしています。

何事にも一生懸命取り組む加藤さんを見て、共に働くスタッフから「見習いたい」と声上がるそうです。仕事で困ったことがあると、他のスタッフさんに聞いてもらい相談に乗ってもらっているとのこと。

そんな加藤さんの将来の夢は、「もっと今の仕事を増やして、色んなことが出来るようになりたい」「おとしよりの方ともたくさん関わって楽しくしたい」だそうです。

3時半に仕事が終わると、お母さんの介護のため、急いでバイクに乗って家に帰られました。



ご利用者様より

いつも加藤さんにはお世話になっています。加藤さんは若くて元気で、汗をびっしょりかきながら、私たちに手取り足取りやさしく教えてください。いつも加藤さんに感謝しています。

加藤さんのある日のスケジュール

10:05	出勤	
10:15	清掃・情報収集	
10:50	レクリエーション準備・実施	
11:45	昼食準備・配膳等	
12:10	昼食休憩	
12:40	食事片付け・介護補助等	
13:20	おとしよりとの会話	
13:40	レクリエーション・ベッド整頓等	
14:50	おやつ準備・介助	
15:10	記録情報の伝達等	
15:30	業務終了	

▶▶▶ご本人たちの働く様子がわかる動画はこちら

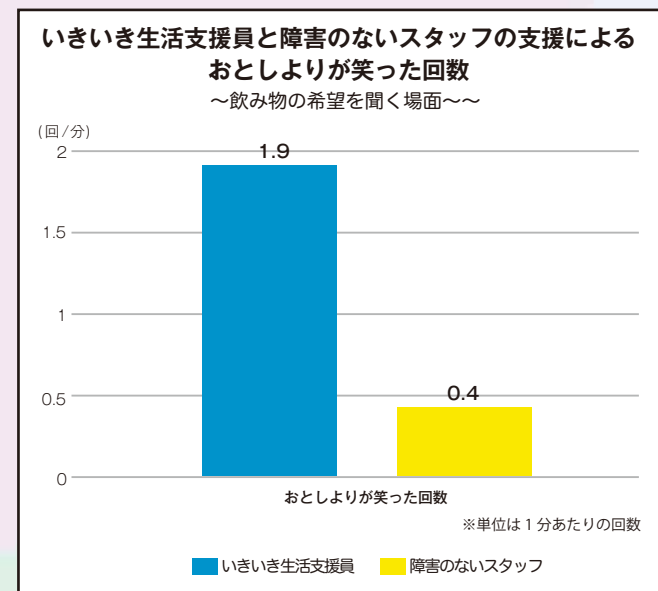


知的障害のある人を雇用する意義

知的障害のある人が介護の現場で働くことによって、おとしよりに「ゆったり」感を提供し、おとしよりに有意義な変化をもたらすことが明らかになっています。知的障害のある人（いきいき生活支援員）は、目の前で支援している人との会話を大切にしています。それは「ゆったり」とした支援となり、おとしよりの笑顔を引き出します。

また、いきいき生活支援員が職場にすることで、おとしよりのコミュニケーション（話す、笑うなど）能力を高め、活動量を上げ、おとしより同士のかかわり合いさえも増やし、共に働く障害のないスタッフも生き生きとすることがわかりました。

2017年度『いきいき生活支援員』に多く見られる「"ならでは"の働き」の見える化』調査研究結果より
調査協力：龍谷大学社会学部 村井龍治教授・栗田修司教授

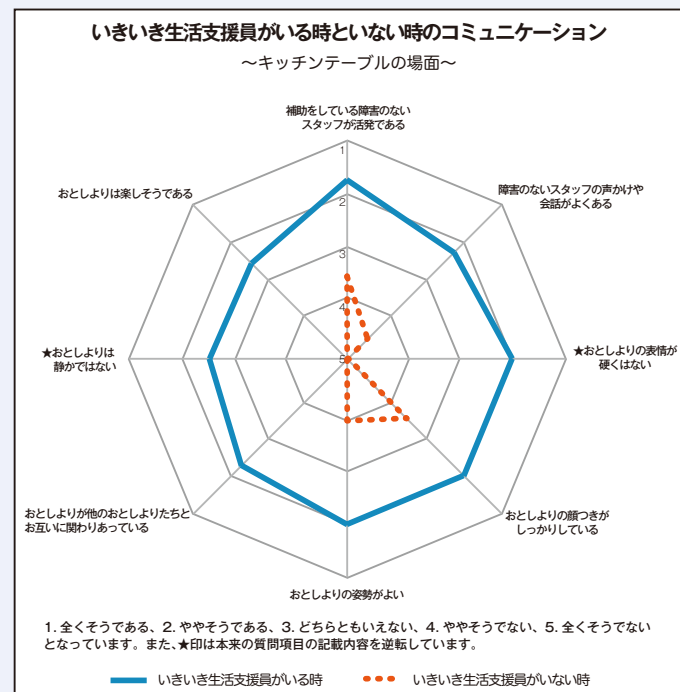


※いきいき生活支援員と障害のないスタッフの事例（各1名）映像をタイマー計測
注：項目の表現は一部わかりやすくしています。

飲み物の希望を聞くときで、いきいき生活支援員が対応する時に、おとしよりが笑った回数（1.9回/分）は、障害のないスタッフが対応した時（0.4回/分）の約5倍である。

※その他結果は「街かどケア滋賀ネットホームページ」内、『障害のある人たちの介護現場での「"ならでは"の働き」から見てきたこと 報告書』をご参照ください。

街かどケア滋賀ネット
ホームページ ▶▶▶



注：いきいき生活支援員がいる時とない時の映像を判定者2名がそれぞれ観察し判定した値の平均値（k係数＝0.736）。なお、質問項目は、グラフが読みとりやすいように一部表現を変えています。

キッチンテーブルにいきいき生活支援も一緒に座っている時は、いない時に比べてすべての項目でポジティブな結果であり、おとしよりが楽しそうで静かではなく、おとしよりがお互いに関わりあっています。また、障害のないスタッフも会話が増えています。



一生懸命



私の役割

ともに働く

～いきいき生活支援員の活躍が介護現場を変革する～



食事前の段取り



ある日のおやつ



いつの間にか折り紙が…

相談窓口

特定非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター
〒525-0032 滋賀県草津市大路2丁目11-15
TEL 077-566-8266 FAX 077-566-8277